

黒川翠山の松島・日光の写真

黒川翠山の絵はがきを数多く制作した会社に、京都の便利堂があります。『手紙雑誌』第3巻第10号（1906年（明治39）10月）には「京都三條富小路の便利堂は、関西絵葉書界の重鎮である」と紹介され、続けて「便利堂は印刷部として有名なるコロタイプ製版所有して居る、加えてその写真部には斯界の獅子児たる黒川翠山氏を始め」と、翠山の名前が出てきます。この文章の最後に、「此頃発売せられた日光、松島、及び東北海岸の勝景の如きは、慥に未曾有の出来栄として、江湖に紹介するに躊躇せぬ」とあります。※

現在、当館の黒川翠山撮影写真資料には、松島の写真が3枚、塩原が1枚、日光が1枚含まれています。松島は柏木島(No.[1722](#))、材木島(No.[1723](#))、大高森の眺望(No.[1724](#))塩原は七弦の滝(No.[1735](#))、日光は東照宮鼓楼(No.[1721](#))です。松島を代表する五大堂、雄島、瑞巖寺などが含まれていません。同様に東照宮の陽明門、眠り猫の彫刻なども見られません。

それはなぜでしょうか。黒川翠山撮影の絵はがきに「松島乃勝景」というのがあります。36枚組(6枚組の6種か?)の絵はがきの記録があり、2種の図柄はわかっています。その1枚に「松島柏木の洞穴」があります。当館にある柏木島の写真(No.1722)と図柄が類似しています。この当時、便利堂の絵はがきはコロタイプによる印刷で、ガラス乾板の幕面をはがして版を作製しました。それゆえに印刷物に使われたガラス乾板は現存していません。そのことから逆に、No.1722の写真原板は、絵はがきに使われなかったため手元に残されたと推測できます。



それと同様に、黒川翠山撮影写真資料に含まれる塩原、日光の写真は、便利堂発行の「日光」「日光山中の瀑布」「常磐海岸」などの絵はがきに使われなかった写真と言えるかもしれません。このような理由で、当館の黒川翠山撮影写真には松島や日光を代表する名所や建物が含まれていないと言えるのではないのでしょうか。

※黒川翠山が 1905 年（明治 38）10 月に東北の松島、北関東の日光などを訪れたことは、「写真資料から 21」（資料館メルマガ 第 79 号、2009 年 10 月 9 日）で取り上げて紹介しました。

参考 生田誠監修、株式会社便利堂編『[明治の京都でのひら道遥](#)：便利堂美術絵はがきことはじめ』（便利堂、2013 年）

（写真資料から 87 資料課 大塚活美）

（2018 年 2 月 4 日公開）